



(挿絵)

「夏三題(二)」 洋画研究所内部

(『国民新聞』昭和五年八月六日)

(A)

画・文 木村莊八

洋画研究所と云へば即ち、裸体モデルを連想されて、はた目には涼しさうですけれど、元来「研究」に涼しいものがありますまいが、研究所の裸体に至つては殊に涼しくないものです。外部からの視見を恐れて窓を締め切る。その室内で図の如く行われるわけです。

*

(報道)

春陽会の夜間講習

(B)

春陽会にては二十九日より十一月二十二日迄、五回夜間講習を開始。同会指導にて石膏素描、静物、人体クロッキー、同素描、彩画等の各科。講習費 全期三〇円。

申込所 麴町内幸町 幸ビル四階 春陽会洋画研究所

(『日本新聞』 昭和五年九月二十八日)